

食糧難の時代、母の叔母は限られた食材でおいしい料理を作り、皆に食べさせてくれました。料理がじょうずに作れるとまわりの人を幸せにできると思ったものでした。料理が得意であれば知人や友人にふるまい、ともに食べる喜びを味わうことができます。人は人と心触れ合うことで生きています。

身内をもあやめる悲惨な事件が起こりますが、たいせつなのは人を孤立させない努力です。私はひとり暮らしですが、大勢の人に支えられていることを感謝しています。日曜日は教会です。そこは乳飲み子から90歳までが集う、一つの大きな家族です。病气やけがで苦しむ人がいれば、皆で心配し快復を祈ります。年齢もさまざま、人生経験の豊富な人々ですから、幅広い視野で物事をとらえること

ができます。泣きやまない赤ちゃんをあやしたり抱っこしたり、子育てで余裕のないお母さんもホッとひと息つくことができます。

単身世帯が多くなると人間関係は希薄になりがちですが、孤立しないでそれぞれが持つ特技を生かして周囲の人と交わる機会を持ち、居場所を見いだしてほしいのです。

人と人との  
心の触れ合いが  
生きる支えとなります

日々の  
暮らしに

香川芳子

女子栄養大学学長



え/平野こうじ